市民の声

頴娃町　牧之内
高吉　美輝

気になるＴＰＰ

頴娃町でお茶農家をやっています。消費の低迷が続く中、苦戦している農家のひとりです。最近報道されるＴＰＰの動きがどうも気になる。本当に日本の農業を守れるのか。農業の盛んな南九州市にとっては一大事だ。友人たちとこんな話をすると「考えてもひとっこよ。なったごっじょ。」と一言。ある友人は南九州市のお茶のＰＲ活動に一生懸命だ。今度は大野岳にシンガポールからお茶畑を見にツアー客が来るという。我が谷場地区でも若い青年たちが新茶マラソンやアグリウォークなどでお茶サービスを頑張っている姿をみる。ＴＰＰ参加でどうなるのか想像もできないが、農業の法人化・大型化そしてブランド化。こだわりの農業など必要になってくるのだろうと思う。作物によっては厳しい面も出てくるのかもしれない。現時点ではどうなるかわからないため不安を感じる農家は多いことだろう。ＴＰＰが決まらないと動きようもないことですが、南九州市でも情報を集め、市民に伝えてほしいと思う。隣の農家と競争する時代は終わったのかな。世界を相手に行う農業に変わりつつある。力を合わせて南九州市の発展に繋がればと思う。

川辺町　上山田
橋口　奈美子

そうだ、南九州市へ行こう！と思わせるまちづくり

市の人口の激減。そのような中で高速道の一部開通など、南九州市にとって、またとない集客のチャンスだと思います。南九州市の観光客が少ない原因は、パンチの効いた観光品及び、観光名所がないことが観光客誘致衰退の一因ではないでしょうか。南九州市のメインとなる観光地がなければ、観光農園や、体験施設などの建設も検討してみたらどうでしょう。案として地域の特色を生かした特産品の販売や、農作物の加工体験施設。そしてその様な施設を利用し南九州市一丸となり様々なイベントを挙げ、その結果「また行きたい」と思わせるようなまちづくりの実現、そして、南九州市の各地の祭りなどでは、多数の来場者訪問の機会を逃さず、住宅情報、宅地の宣伝など積極的に行って欲しいです。市が取り組むべき課題は沢山あると思いますが、まずは南九州市に来てもらい、そして住民の定着に積極的に力を入れて頂きたいと願います。住環境が良いと判断したら子を持つ親や、定年後の生き方を模索している方は定住を視野に入れると思いますし、様々なイベントで若者が集えば若者の流出も防げるのではないでしょうか。

議会を傍聴してみませんか。

次の議会は12月3日（火）開会予定

“手続き簡単”本館２階で住所・氏名を書くだけ

編集後記

朝夕は、すっかり肌寒さを感じ秋の季節を迎え、まちではサツマイモ・普通米の収穫や秋番茶の摘採を目にする一方で、桜島の火山灰にも悩まされました。

また、10月16日には、台風26号による土石流により、伊豆大島では甚大な被害を受け、今後も市民の皆さまが安心・安全に生活できる体制を整えておくことの大切さを痛切に感じました。

さて、今回の議会だよりをもって広報編集委員も変わります。寄稿いただいた方、これまでご愛読いただいた方々、誠にありがとうございました。

（田畑）

▼広報編集委員会
委員長　峯苫　勝範
副委員長　田畑浩一郎
委員　亀甲　俊博
下窪　一輝
西　次雄
吉永　賢三